

『鳥の道を越えて』の上映会を開きます

9月28日(金)、4時40分から地平線報告会と同じ会場で

9月の地平線報告会は、28日(金)に開催します。報告者は、記録映画監督の今井友樹さん。2004年から姫田忠義さん率いる民族文化映像研究所に所属したあと、2010年に独立。2014年に発表した長編記録映画『鳥の道を越えて』が大きな話題を呼びました。2018年には『坂網獵』と『夜明け前』の2本の作品を発表しています。

28日の地平線報告会はいつもの通り午後6時30分スタートですが、その前に同じ会場で、今井さんの初監督作品『鳥の道を越えて』(93分)を上映します(地平線会議による自主上映会)。開場は4時15分。4時40分過ぎから上映を開始し、6時15分に終了します。そのまま約15分の休憩をはさんで、6時30分から今井さんを報告者に迎えて、地平線報告会が始まります。

『鳥の道を越えて』自主上映会

会場：新宿スポーツセンター 2F大会議室

〒169-0072 新宿区大久保3-5-1
03-3232-0171

JR山手線・西武新宿線「高田馬場」駅から徒歩10分
東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車
「出口3」より徒歩5分

<http://www.shinjuku-sportscenter.com/>

日時：2018年9月28日(金)

開場：16:15～

上映開始：16:40～

終了：18:15

会費：1000円

地平線報告会は、どなたでも自由に参加いただける場です。この自主上映会も、これまで地平線会議なんて聞いたこともないという、一般の方の参加も大歓迎です。東京ではあまり上映される機会のない『鳥の道を越えて』を観賞できる機会として、ぜひご利用ください。事前の申し込みなどは不要です。

■以下の点をご了承のうえ、ご参加ください。

☆会場は普通の会議室です。スクリーンや音響、椅子などは、映画館のような充実した設備ではありません。

☆開場は4時15分です。準備でばたばたしているかもしれませんが、それ以前にも入室できます。

☆4時40分に上映を開始する予定ですが、スクリーンや上映機材などのセッティングに手間取った場合は、少し遅れるかもしれません。その場合、6時半からの地平線報告会の開始も少し遅れる可能性があります。

☆時間的に難しいので、今井監督の舞台挨拶やトークなどはおこないません。6時半からの地平線報告会でお楽しみください。2時間半、たっぷり時間をとってあります(内容について、詳しくは後日)。その後、二次会もあります(地下鉄早稲田駅近くの中華料理店「北京」にて)。

☆地平線報告会は、この自主上映会とは別のプログラムです。上映終了後、続いて地平線報告会に参加される場合は、受付であらかじめ1500円(上映会1000円+報告会500円)をお支払いください。報告会開始まで時間がないので、受付が混雑するのを少しでも避けたいと思います。。

長編記録映画

『鳥の道を越えて』

(2014年／93分／日本語・英語)

[人と鳥の関係を改めて見つめ直す]

「かつて故郷の空が渡り鳥の大群で埋め尽くされた」という祖父の話をもとに、孫である監督は鳥の道を探し求めて旅にでる。渡り鳥の大群が渡っていた時代、村では「カスミ網獵」が行われていた。どのように捕まえたのか。なぜ渡り鳥を食べなければならなかったのか。そしてなぜ現在は禁猟になっているのか。旅の過程で生まれるひとつひとつの疑問を丹念に追っていく。

■受賞歴

平成26年度文化庁映画賞文化記録映画優秀賞

第88回キネマ旬報文化映画部門第1位

第2回グリーンイメーজ国際環境映像祭グリーンイメージ賞

第56回科学技術映像祭内閣総理大臣賞

■スタッフ

プロデューサー 鈴木正義／今井千洋

監督 今井友樹

撮影 澤幡正範／川口慎一郎／永山正史／早川正文

録音 高木 創

作図 岩井友子

音楽 姫田 大

ナレーション 今井友樹

監修 佐藤文男(公益財団法人山階鳥類研究所)

■共同制作

有限会社シネクライム

■製作

株式会社工房ギャレット

■助成

文化庁文化芸術振興費補助金事業／公益財団法人トヨタ財団

作品の内容については、今井さんの「工房ギャレット」のページをご覧ください。予告映像も用意されています。

<https://studio-garret.com/works/torinomichi>

オキのサキと飛べ!!

地平線報告会：9月28日(金) 18:30～21:00 500円
 「鳥の道を越えて」特別上映会：16:40～18:15 1000円
 於：新宿スポーツセンター 2F大会議室

「鳥の映画にするつもりじゃなかったんです」というのは映像作家の今井友樹さん(38)。郷里、岐阜県の東濃地方で、かつて空が真っ黒になるほどの大群が渡る「鳥の道」があり、猟師がいたと語る祖父の言葉に触発され、日本の野鳥猟文化を追った記録映画「鳥の道を越えて('14)」を制作しました。

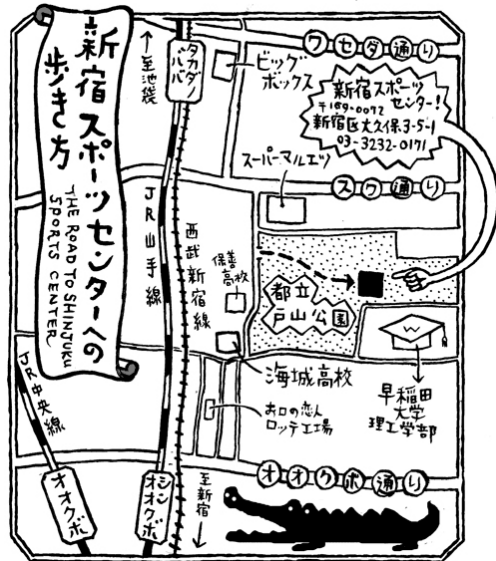
「一番の興味は、鳥を巡る人の営みです」という今井さんは民族映像文化研究所(民映研)で所長の故・姫田忠義氏に師事。近所に住み、内弟子のように毎日送り迎えをした8年間に、民俗学者でもあった姫田流の人間観察術を学びました。

「大工の家系に生まれ育ったので、密接な師弟関係を求めていたのかも」と今井さん。「オキのサキ」という謎のような言葉は、師匠が最後に残した、今井さんだけにわかるメッセージでした。

今井さんは継続的に鳥猟取材し、今年は石川県の伝統的な鳥猟を追った「坂網猟」(42分)を発表しています。

今月は今井さんにいまも各地に残る驚くべき鳥猟を追うエピソードと、姫田氏との師弟関係を巡る人間模様を語って頂きます。

※なお、いつもの報告会前の時間で、映画「鳥の道を越えて」の特別上映会(有料)を行います。是非併せて御覧ください!



新宿スポーツセンター
 〒169-0072
 新宿区大久保3-5-1
 03-3232-0171
 JR山手線・西武新宿線
 「高田馬場」駅から徒歩10分
 東京メトロ副都心線
 「西早稲田」駅下車
 「出口3」より徒歩5分



「鳥の映画にするつもりじゃなかったんです」というのは映像作家の今井友樹さん(38)。郷里、岐阜県の東濃地方で、かつて空が真っ黒になるほどの大群が渡る「鳥の道」があり、猟師がいたと語る祖父の言葉に触発され、日本の野鳥猟文化を追った記録映画「鳥の道を越えて('14)」を制作しました。「一番の興味は鳥を巡る人の営みです」という今井さんは民族映像文化研究所(民映研)で所長の故・姫田忠義氏に師事。近所に住み、内弟子のように毎日の送り迎えをした8年間に、民俗学者でもあった姫田流の人間観察術を学びました。「大工の家系に生まれ育ったので、密接な師弟関係を求めていたのかも」と今井さん。オキのサキという謎のような言葉は、師匠が最後に残した、今井さんだけにわかるメッセージでした。今井さんは継続的に鳥猟取材し、今年は石川県の伝統的な鳥猟を追った「坂網猟」(42分)を発表しています。今月は今井さんにいまも各地に残る驚くべき鳥猟を追うエピソードと、姫田氏との師弟関係を巡る人間模様を語って頂きます。

※なお、いつもの報告会前の時間で、映画「鳥の道を越えて」の特別上映会(有料)を行います。是非併せて御覧ください!

オキのサキと飛べ!!

映画「鳥の道を越えて」特別上映会 (43分)
 9月28日 16:40~18:15 ¥1000 @ 新宿スポーツセンター2F大会議室 (開場16:30です。映画終了後引き続き報告会に参ります)